

5・6号設備運用状況

分野名	括り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定	3月			4月			5月			5月	6月	7月	8月	9月以降	備考
				3	10	17	24	31	上	中	下	新	前	前	前	前		
5・6号設備運用状況	運用管理	1. 設備維持	DG、冷却設備等の維持  (実績) 計画的な点検の実施 (予定) 計画的な点検の実施	現場作業	5号機計画点検												6号機計画点検	5・6号機の設備維持に必要な計画点検の実施。 ・5号機計画点検予定時期：2023年12月～2024年6月 ・6号機計画点検予定時期：2024年6月～2024年12月 <現在の状況> D/G5B：2023年12月～2024年3月
		2. 使用済燃料の冷却	5号機使用済燃料の冷却  (実績) 使用済燃料の冷却継続(2015/6/1使用済燃料プールへの燃料移動完了) (予定) 使用済燃料の冷却継続	現場作業	使用済燃料の冷却継続												(継続運転)	5号使用済燃料プールからの取り出しについては、1-3号機使用済燃料プールからの燃料取り出しのスケジュールに影響を与えないよう実施予定。
			6号機使用済燃料の冷却  (実績) 使用済燃料の冷却継続(2013/11/29使用済燃料プールへの燃料移動完了) (予定) 使用済燃料の冷却継続	現場作業	使用済燃料の冷却継続												(継続運転)	6号使用済燃料プールからの取り出しについては、1-3号機使用済燃料プールからの燃料取り出しのスケジュールに影響を与えないよう実施予定。
		3. 滞留水の処理	建屋滞留水移送・処理  (実績) 滞留水移送・処理 (予定) 滞留水移送・処理	現場作業	滞留水移送・処理												(継続実施)	建屋内の滞留水を屋外タンクに移送後、RO装置→浄化ユニットにて処理後、構内散水。 <運用状況> ・浄化ユニット：(A)・(C)・(D) 運転中 / (B) 待機中 ⇒2022年11月 浄化ユニット移送ポンプ(A)・(B)・(C)・(D) 点検完了 <今後の対応> ・浄化ユニット：5・6号機建屋内滞留水処理を継続する。 ・浄化ユニット(B・D) 活性炭吸着交換(2023年6月20日～2023年7月5日) ・浄化ユニット(A・C) 活性炭吸着交換(2023年10月10日～2023年10月13日) ・浄化ユニット(B・D) 吸着塔交換(2023年10月20日～2023年10月21日) ・浄化ユニット(A・C) 吸着塔交換(2024年2月15日～2024年2月16日)
		4. 5・6号サブドレン設備の運転	5・6号サブドレン設備の運転  (実績) サブドレン水移送 (予定) サブドレン水移送	現場作業	サブドレン水移送												(継続運転)	・2022年3月28日～：5・6号サブドレン運用開始(日中帯運転) ・2022年4月14日～：5・6号サブドレン24時間運転開始(処理量：1～4号サブドレン集水設備に約100m3/日移送) ・2022年4月14日～2022年5月19日：処理量変更 約100m3/日 → 約200m3/日 ・2022年5月19日～2022年6月6日：処理量変更 約100m3/日 → 約200m3/日 ・2022年6月6日～：処理量変更 約200m3/日 → 約250m3/日 ・運用中のピット：12/13(箇所) ・現在運転停止中のサブドレンピット(No.87) ・2022年12月12日～21日：5・6号サブドレン集水設備を全停止し、計画点検を実施。 ・2023年12月7日～19日：5・6号サブドレン集水設備を全停止し、計画点検を実施。 <今後の対応> ・サブドレン水の移送を継続する。
5. 新燃料の搬出	6号機の新燃料の除染・搬出  (実績) 解体・除染・再組立 (予定) 解体・除染・再組立	現場作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年4月24日：実施計画変更認可申請</li> <li>2018年10月22日：実施計画変更認可</li> <li>2018年8月下旬：搬出準備作業を開始。</li> <li>2019年9月下旬：解体・除染作業再開(準備作業含む)</li> <li>2019年11月25日：新燃料除染作業における燃料棒の曲げ事象が発生し、作業中断。</li> <li>2020年4月8,9日：健全燃料棒71本を除染・再組立てしNFVに収納。</li> <li>2020年4月22日～24日：曲がり燃料棒の曲げ戻し作業を実施。</li> <li>2020年4月27日：曲げ戻した燃料棒(1本)を71本の健全棒が挿入された燃料集合体に挿入、新燃料貯蔵庫(以下、NFV)へ収納。</li> <li>2020年11月27日：今年度予定されていた解体・除染作業15体終了。</li> <li>2021年1月29日：解体除染で発生した廃棄物(部材等)の減容作業終了</li> <li>2021年7月12日：プール外への新燃料搬出時に經由するチャンネル筒脱機の使用前点検で不具合発見</li> <li>2021年度の解体・除染の時期について2023/1に変更。</li> <li>チャンネル筒脱機の上昇機能を用いない治具等を製作済</li> <li>2023年1月27日：プール内の11体の新燃料(国産品)の解体・除染・再組立を実施しNFVへ収納。</li> <li>海外品56体についてNFVへ収納済み。除染などの対応は不要。</li> </ul>															
	6号機に貯蔵中の4号機の新燃料の洗浄・搬出  (実績) 洗浄(線量測定のみ) (予定) 洗浄	現場作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年12月：洗浄装置設置終了</li> <li>2022年1月：洗浄開始(線量が低いため、線量測定のみ実施中)</li> <li>2022年3月24日：180体の線量測定完了 線量が低いため洗浄は実施せず</li> </ul>															

# 福島第一原子力発電所 5・6号機の現状について

(5・6号機低レベル滞留水の状況)

2024年3月28日

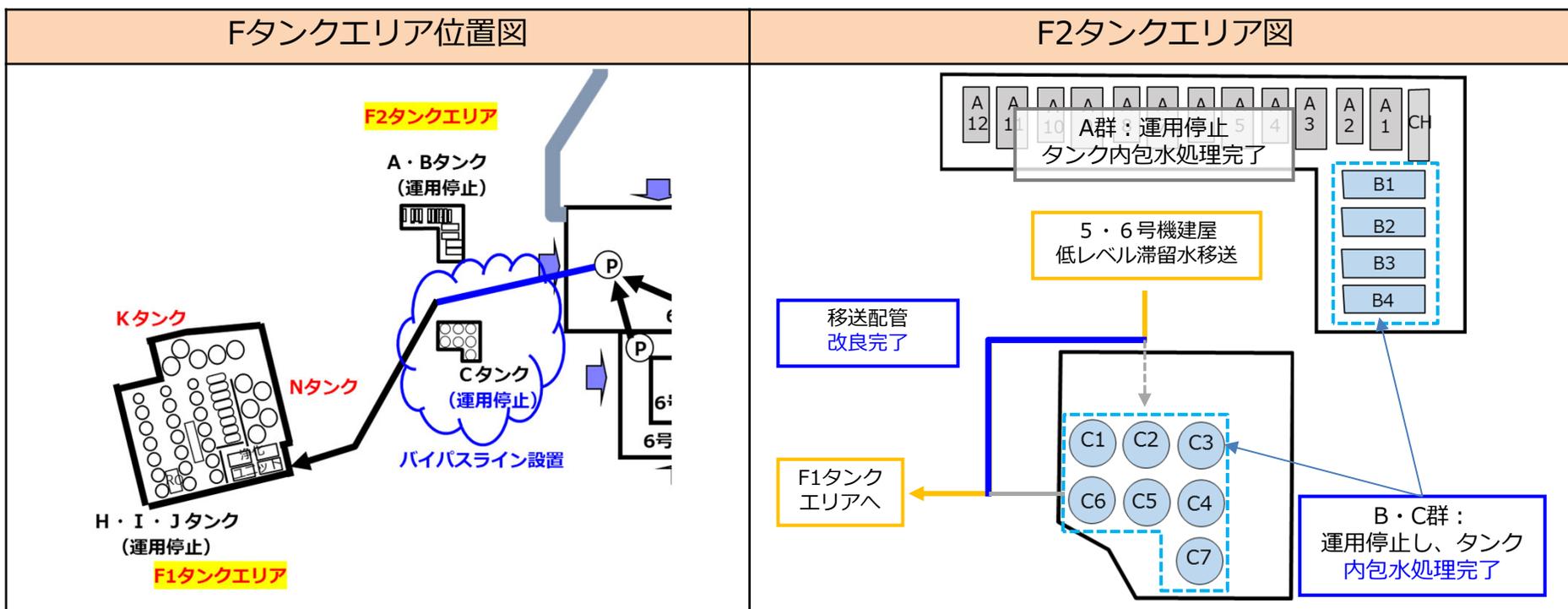
---

東京電力ホールディングス株式会社

**TEPCO**

- 56号機屋外（F1・F2タンクエリア）において、地震等による漏洩リスクを除去するため、フランジ型タンク（B・C・H・I・J群）の運用を停止した。
- 揚程確保のための中間タンク（C群）については運用停止に併せてC群タンクバイパスラインを設置し、使用前検査を完了した。検査合格証を受領後、運用開始予定。
- フランジ型タンクB群、C群ともに内包水の抜き取りを完了し、漏洩リスクが無い状態としている。  
現在、撤去時期を調整中。

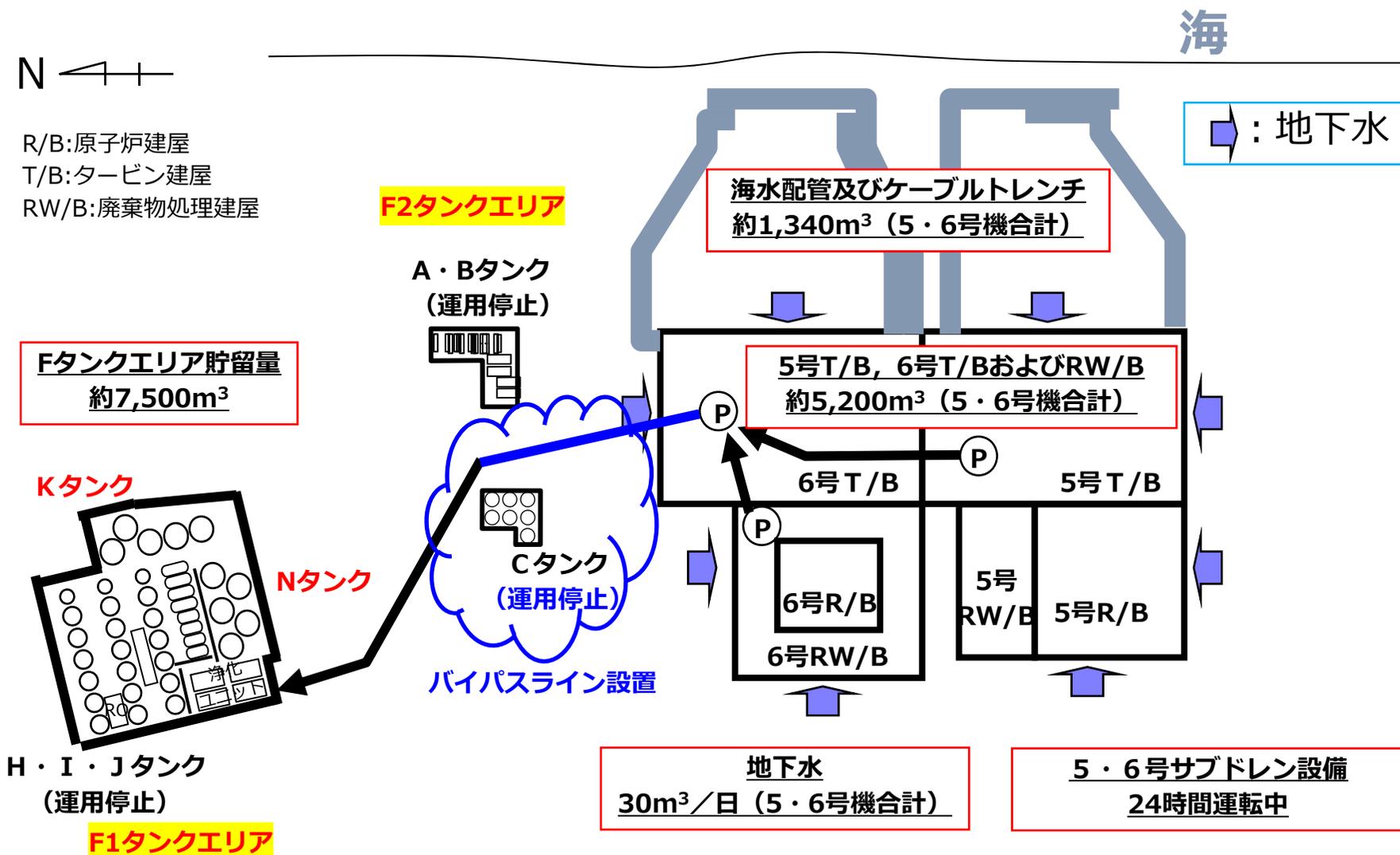
- 地震等による漏洩リスクを除去するため、フランジ型タンクの運用停止、及び内包水処理を実施した。
- 56号機（F1・F2タンクエリア）のフランジ型タンクは、B・C・H・I・J群タンク。
  - H・I・J群（21基）：運用停止・内包水処理完了（2022年10月）
  - B群（4基）：運用停止・内包水処理完了。（2024年2月）
  - C群（7基）：揚程確保の中間タンクのため、バイパスラインを新設した後に運用停止し、内包水処理を完了。（2024年3月）



<凡例>    — : 移送配管 (新設)    — : 移送配管 (既設流用)    — : 移送配管 (運用停止)    ⋯ : 配管取外し箇所



5・6号機 低レベル滞留水量の合計約14,040m<sup>3</sup> (2024.3.25現在)

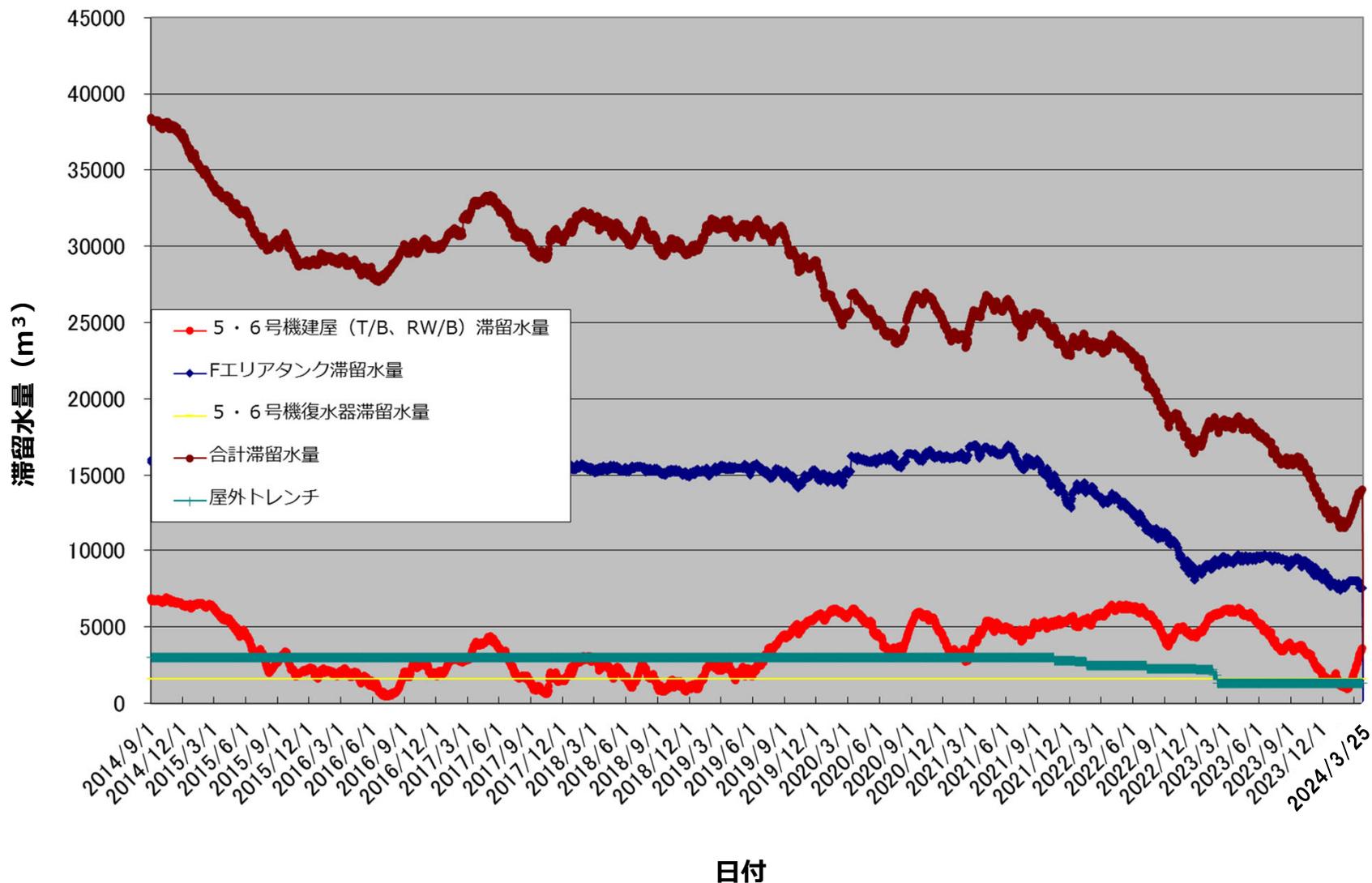


※1 : 5・6号機滞留水は、1-4号機滞留水と比べ放射能濃度が十分低いため、区別する目的で「低レベル滞留水」と記載する。

## 5・6号機 低レベル滞留水量の推移

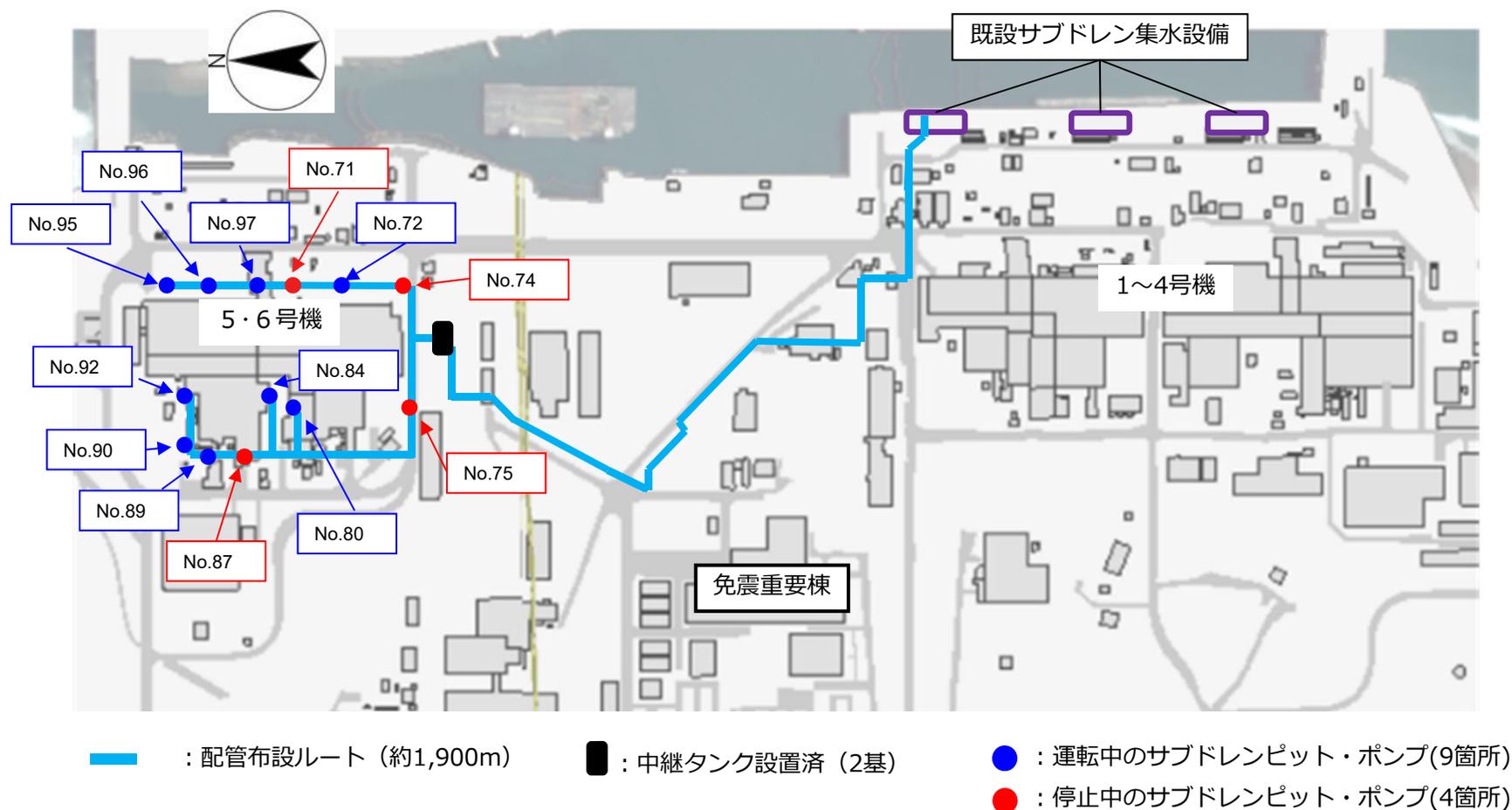
- 2014年9月から2024年3月までの5・6号機 低レベル滞留水量の推移は以下のとおり

5・6号機 低レベル滞留水量の推移



## 5・6号機 サブドレン集水設備の稼働状況（2024年3月25日現在）

- 5・6号機サブドレン設備は2022年3月28日より運用（移送）を開始し、現在は24時間運転中※2

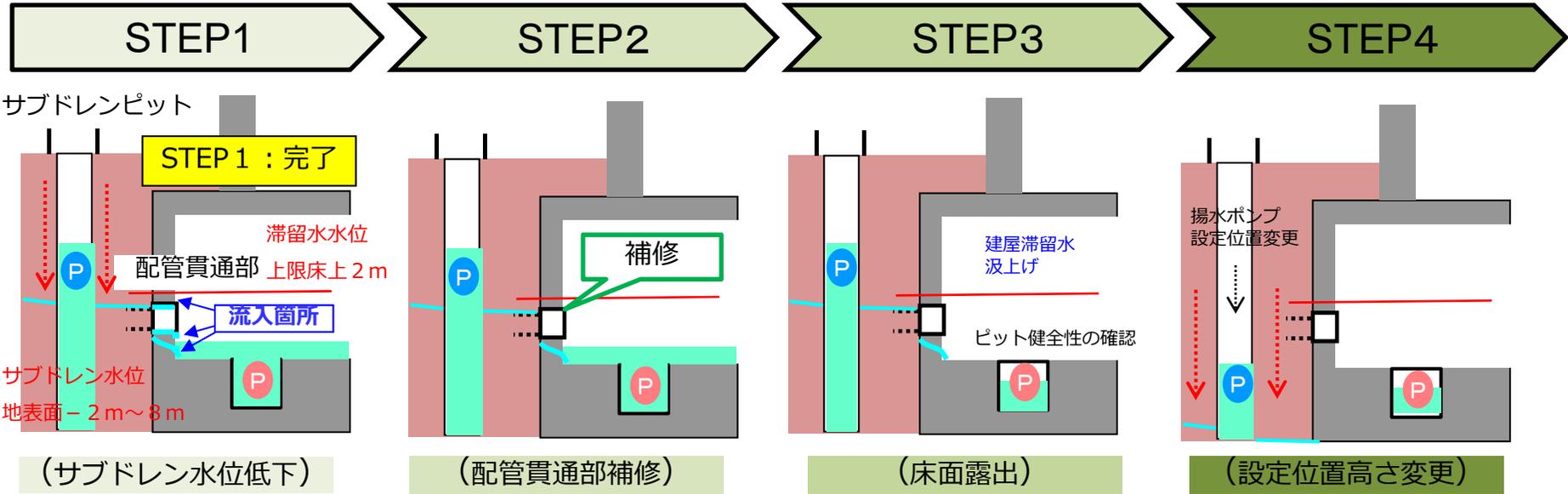


※2：汲み上げ量の監視を行いながら，サブドレンピット・ポンプの運転計画を立てている。

以下参考

# <参考> 5・6号機建屋の滞留水低減対策

■ 5・6号機建屋の地下水流入量を低下させるため、下記の対策を進めていく。

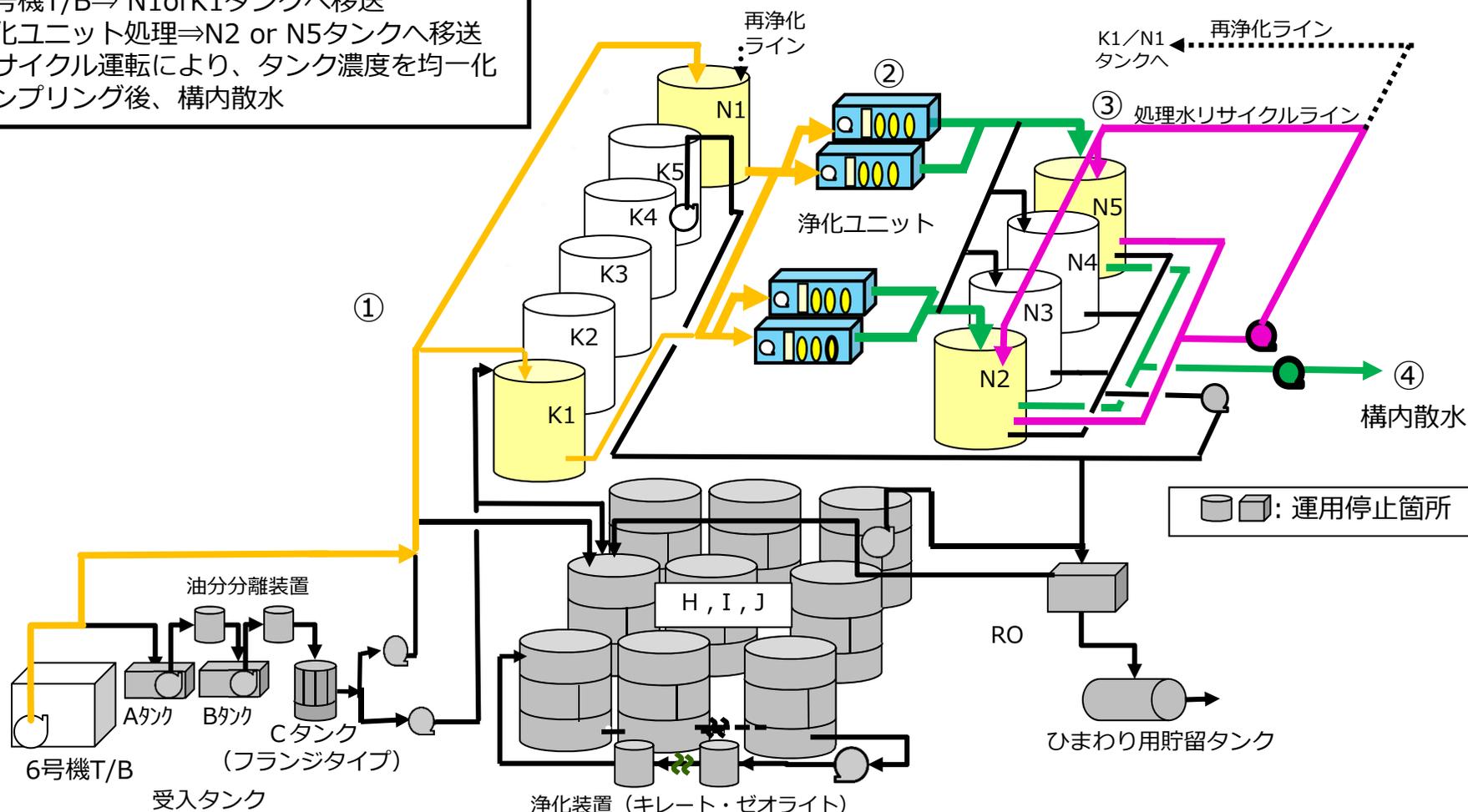


<凡例> P : サブドレン揚水ポンプ    P : 滞留水移送ポンプ    ■ : 地面・土中    ■ : 各建屋壁面・構築物

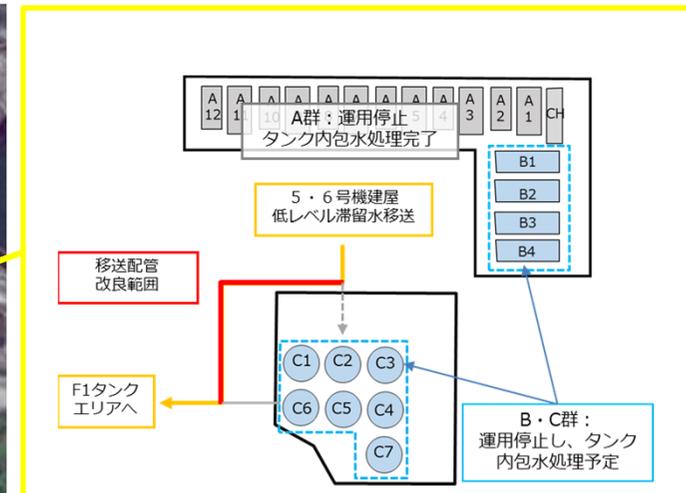
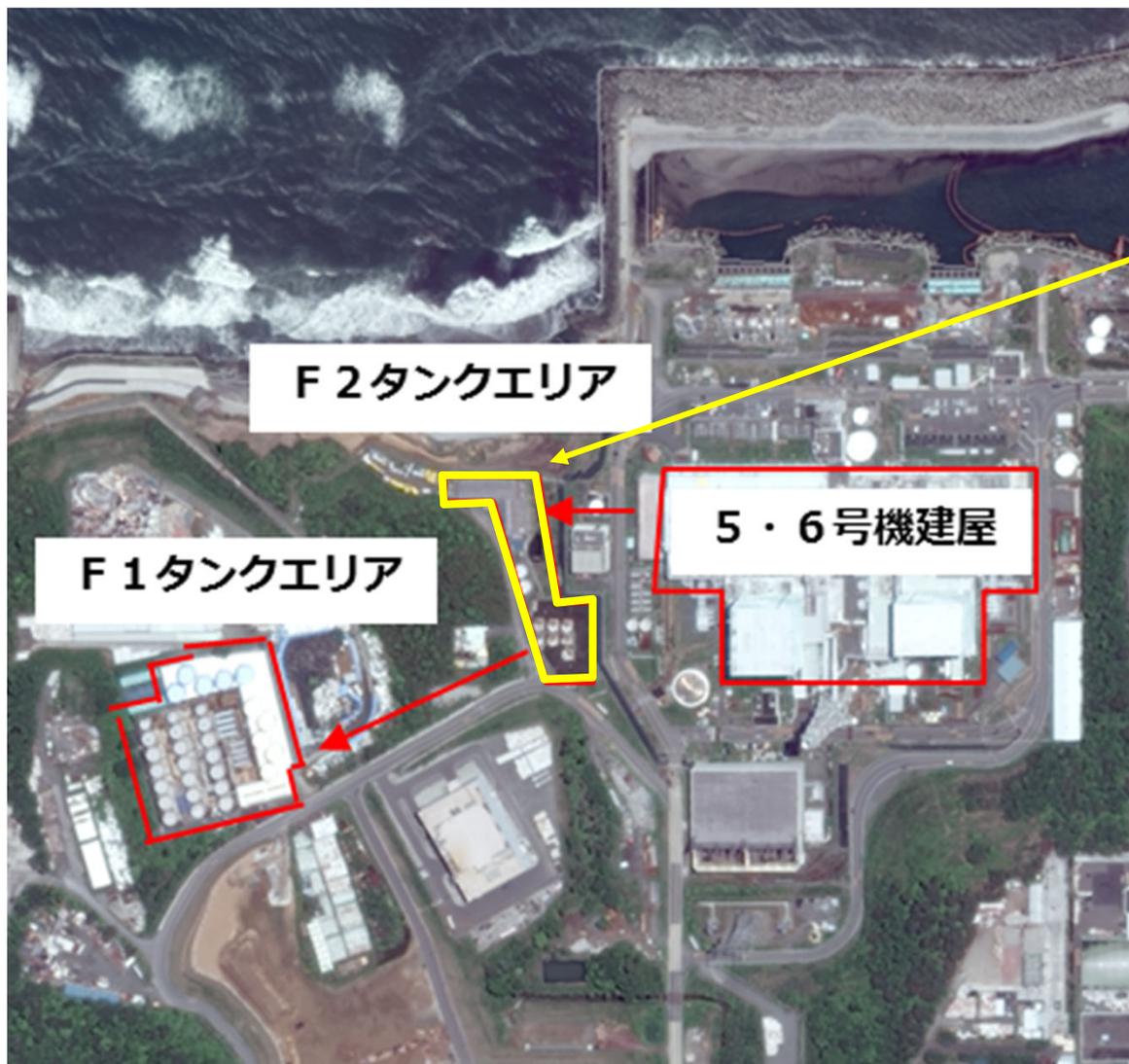
	2024年度				2025年度				2026年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
主要工程	配管貫通部補修 STEP2				床面露出・建屋清掃 STEP3				サブドレン運用見直し STEP4			

# <参考> Cタンク停止後の5・6号機滞留水処理設備の全体概略図

- 【5, 6号機建屋滞留水処理方法】**
- ① : 6号機T/B⇒ N1orK1タンクへ移送
  - ② : 浄化ユニット処理⇒N2 or N5タンクへ移送
  - ③ : リサイクル運転により、タンク濃度を均一化
  - ④ : サンプルング後、構内散水

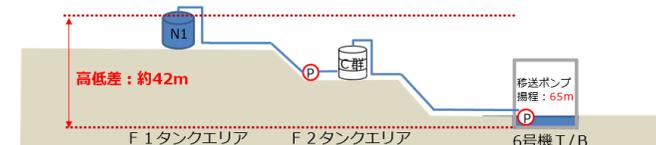


<凡例> — : 滞留水ライン — : 処理水ライン — : 処理水リサイクルライン — : 運用停止ライン



> 現状

- ・漏洩リスク低減のため、Fタンクエリアのフランジ型タンクの運用を停止する必要がある。
- ・現在使用している、5・6号機建屋滞留水移送ラインの中間タンク（C群）が対象に含まれる。



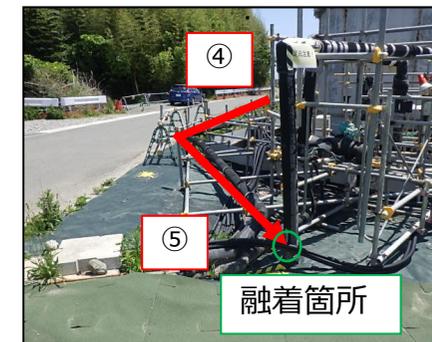
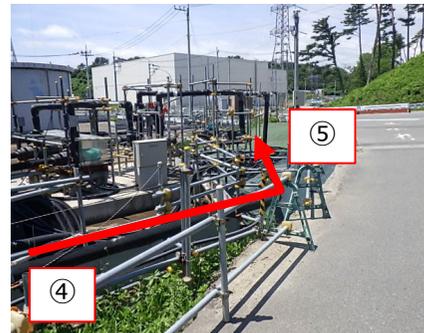
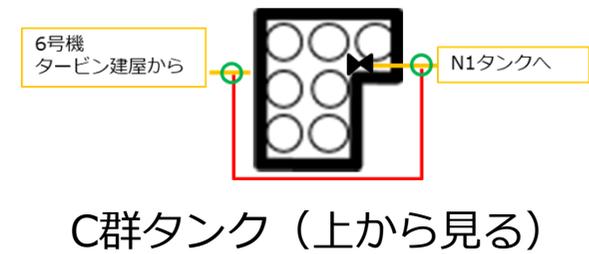
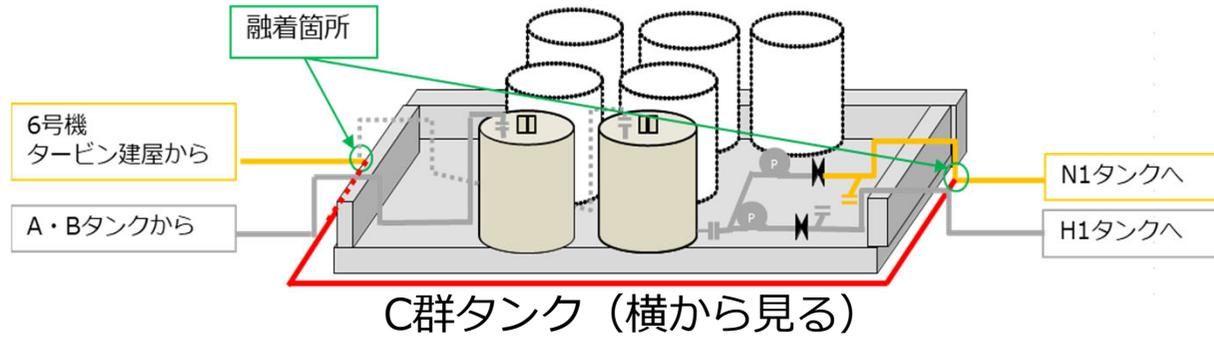
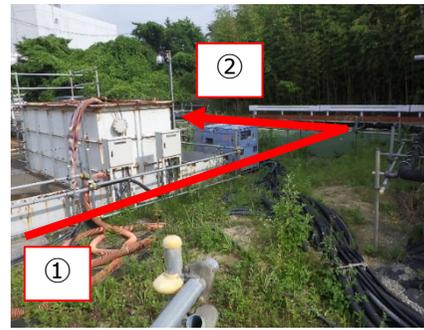
> Cタンク運用停止後

- ・C群タンク運用停止に伴い、6号機T/BからN1タンクへ直接滞留水を移送する配管を設置。
- ・既存の滞留水移送ポンプ（揚程：65m）では、N1タンクまで滞留水を移送出来ないため、滞留水移送ポンプの基本仕様を変更する。（揚程：93m）



<凡例>    — : 移送配管（新設）    — : 移送配管（既設流用）    — : 移送配管（運用停止）    ⋯ : 配管取外し箇所

# <参考> 5・6号機滞留水移送配管改良の作業エリア写真



<凡例> — : 移送配管 (新設)    — : 移送配管 (既設流用)    — : 移送配管 (運用停止)    ..... : 配管取外し箇所    : Cタンク